第26号

中病だより

島根県立中央病院広報誌　2016.3月

〒693-8555　島根県出雲市姫原四丁目1番地1
TEL　0853-22-5111　FAX　0853-21-2975
Mail　tyuobyoin@pref.shimane.lg.jp
URL　http://www.spch.izumo.shimane.jp/

題字　岩成　治　／　表紙写真　病院長に目録を手渡す和田投手出雲地区後援会萬代会長

特　集
◇より安心していただける病院を目指して　……　2
取組紹介
◇島根がんのリハビリテーション研修会を開催しました　……　3
取組紹介
◇初期研修を通して　……　4
取組紹介
◇臨床研修について　……　4
取組紹介
◇「臨床教育・研修支援センター」開設とチーム医療の取り組みについて　……　5
取組紹介
◇言語聴覚士の取り組み紹介!(^^)!　……　6
連　載
◇シリーズ『技術のデパート』検査技術科　part4　……　7
取組紹介
◇安全な食事提供に向けた取組み　……　8
取組紹介
◇島根県立中央病院はなまる賞はじめました　……　9
お知らせ
◇平成27年度　開催イベントの紹介　……　10
お知らせ
◇『乳腺科外来』についてのお知らせ　……　12
お知らせ
◇外来診療表　……　12

～表紙写真～
米大リーグでプレーし来季はプロ野球ソフトバンクに復帰する出雲市出身和田毅投手・出雲地区後援会より、グッズオークションの売上金を寄付して頂きました。和田投手の意向に沿い、小児医療に役立てさせていただきます。和田投手・後援会の皆様・オークションに参加された和田投手ファンの皆様、ありがとうございました。

～～　より安心していただける病院を目指して　～～

COMLの病院探検隊を経験して

島根県立中央病院　病院長　菊池 清

吉田松陰の残した言葉です。**輪の中にいると見えなくなる**(覚悟の磨き方－超訳吉田松陰[92頁]、編訳池田貴将、サンクチュアリ出版より)――人が心ないことをしてしまうとき、当人はそれが「ひどいこと」だとは自覚していないし、少しも気にしていません。もしも自分が部外者ならば、はたから見て「ひどいこと」だってわかるはずです。ですが人はひとたび輪の中に入ってしまうと、どんなに賢い人でもその中に埋もれて、自分のやっていることに、気づかなくなることがあるんです。ですから、ときどき自分たちの行いを客観的に考えてみることが大切です。「もしかしたら私たちは、どうかしているのかもしれない」と。

私たち医療者は、患者さんのためにとの思いで日々の仕事をしています。しかし、吉田松陰が指摘する通り、病院の中で毎日働いていると見えなくなっていることがあるのかもしれません。そこで、NPO法人ささえあい医療人権センターCOML(以下、COMLと略します)の病院探検隊にお願いして来ていただくことにしました。COMLとは、「賢い患者になりましょう」を合言葉に、1990年9月に活動をスタートさせた市民団体です。患者さん一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」であるとの自覚を持ち、患者さんと医療者が対立するのではなく、“協働”する医療の実現を願って活動しています。電話相談を日常活動の柱とし、医療現場により良いコミュニケーションを築くために、患者塾・講演・セミナー・模擬患者・病院探検隊などを行っています。病院探検隊は、医療機関からの依頼を受けて、病院見学や受診をし、患者さんの視点から病院改善のための提案・提言をされます。

2015年10月21日に、9名の病院探検隊メンバーが来院されました。午前中は3つのグループに分かれ、自由見学が3名、職員の案内による見学が3名、そして3名の方が3診療科を受診されました。昼食は、数種類の病院食を試食されました。午後からは病院管理部門を含む職員との意見交換でした。後日、9名の方の個別のレポートと、それをまとめた「総合フィードバック」文書をいただきました。全体の印象、玄関・受付・外来・病棟・掲示物・病院食などで気付かれたこと、受診しての感想などがまとめられていました。私たちが思っていたこともあれば、見えていなかったこともありました。33の指摘事項をいただきました。今年度中に指摘事項を検討し、改善していく予定です。

病院探検隊メンバーの方との意見交換会

医療とは、患者さんの身体、いのち、こころ、人生を支え、個人が尊重され、安定的で文化的な生活ができる“ゆたかな社会”をつくるために大切な制度です。“ゆたかな地域社会”づくりが、医療の目的であり、私たち医療者の使命です。より安心していただける病院を目指して、職員とともに努力してまいります。地域の皆様にはご理解いただきますようお願い申し上げます。

～～　島根がんのリハビリテーション研修会を開催しました　～～

医療局　リハビリテーション科部長　永田 智子
（島根がんのリハビリテーション研修会実行委員長）

平成27年12月12･13日に、当院を会場に『第1回島根がんのリハビリテーション研修会』を開催し、実行委員長を務めました。2日間14時間の厚生労働省指定プログラムを修了した101名、20医療チーム（県内17、県外3チーム：医師21名、看護師22名、リハ療法士58名）が、『がんのリハビリテーション（リハ）料』算定のための資格を取得しました。

『がんのリハ料』は、平成22年度診療報酬改定で新設され、患者さんが手術･放射線治療･化学療法等の治療を受ける際、これらの治療によって合併症や機能障害を生じることが予想されるため、治療前あるいは治療後早期からリハを行うことで機能低下を最小限に抑え、早期回復を図る取組を評価するものです。

今回開催した研修会は、当院と島根大学医学部附属病院リハ部のスタッフが協業して実行委員会を組織、半年余りの準備期間を経て研修会会長･菊池中央病院病院長をはじめ、島根県医師会･看護協会･三士会など院内外からの後援･ご支援を頂き出雲の地で実現しました。地方研修会としては中国地方初のものであり、県外からの受講者もありました。

がんリハ研修会の趣旨は、資格取得に加え、がん患者のリハに携わる医療従事者がチーム医療の観点から、がん領域のリハに関するスキルと専門的な知識を習得し、チーム活動の充実を図ることにあります。がん患者の療養生活の質的向上につなげるため、座学での知識習得にとどまらず、心と身体を使う体験型グループワークを盛り込んだ参加型研修です。

グループワークに取り組む受講者と発表の様子

国民の2人に1人がガンに罹患するといわれ、がん治療中の医療の質の担保、生産年齢では復職支援も求められています。現在、がんリハ料は入院中のみの適用ですが、今後ますます需要が拡大していくものと考えます。

島根県では、平成18年9月に全国初の「島根県がん対策推進条例」が制定され、平成20年3月には「島根県がん対策推進計画」を策定し、「がん予防の推進」、「がん医療水準の向上」、「患者支援」の3つの柱からなる総合的ながん対策を全国に先駆けて取り組んできた流れがあります。平成25年3月の「島根県がん対策推進計画」には、がん拠点病院における主な施策の一つとして、がん治療中のリハを担うリハスタッフの育成と、多職種によるチーム医療体制の構築が明記されています。一方、『がんのリハ料』の実施･算定のためには、指定講習会の受講が必須要件となるため、島根の地では人材育成のハードルが高く資格をもつ医療職の不足が深刻でした。首都圏開催の指定研修会は、全国から応募が殺到し倍率が高いため、多くの施設で時間的･経済的な負担に苦慮した経緯があります。

今回の研修会の前、県内でがんのリハビリテーション料を算定する施設は13施設（平成27年12月現在）でしたが、研修会受講により新たに県内6施設が実施要件を満たし、また県内全体としては有資格スタッフを大きく増やし人材充実につながりました。

本研修会は、島根県および近隣地域におけるがん患者の療養生活の質的向上に資することを目的とし、研修事業を通して人材育成を行い、がんリハの普及と質の向上をめざし、島根大学をはじめ施設間連携を図り継続的に活動したいと考えています。引き続き、当活動へのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

研修終了証授与後、全員で記念撮影

～～　初期研修を通して　～～

医療局　初期臨床研修医　白壁 香恵

初期臨床研修医の白壁香恵です。

当院で初期研修を始めて、早くも2年が経とうとしています。

一昨年の春、医師国家試験に合格し、医師として働くことが出来る喜びと同時に、人の命をあずかるという責任・不安を感じながら、研修医としての生活がスタートしました。環境や立場ががらりと変わり、戸惑うことばかりで、弱気になることもありましたが、上級医の先生方からのご指導や、先輩研修医の先生方からのアドバイス、同期の支え、当院で働くスタッフの皆さんからの励まし、患者さんの笑顔に、背中を押してもらいました。

初期研修の2年間は本当にあっという間だと思います。未だに初めて経験することが多く、情けなさを感じてばかりです。まだまだ未熟で、自信を持てないことが多いですが、患者さんから見ればこんな私も一人のお医者さん。一日一歩ずつでも成長出来るように、毎日を大切に、チャンスを逃さず、一つでも多くのことを経験していきたいです。

最後になりましたが、当院における初期研修をより良いものにするために、日々の業務の傍ら、協議を重ねて下さっている臨床研修委員会の先生方、熱心にご指導頂いている各診療科の先生方・病院スタッフの皆様に心から感謝致します。感謝の気持ちを行動で返せるように、胸を張って成長した姿を見せることが出来るように、残りの研修期間を大切に過ごしていきたいと思います。

～～　臨床研修について　～～

医療局　総合診療科　後期臨床研修医　上村 祐介

「研修医」は、最近テレビドラマになったり、医療系番組にも登場するようになりました。実際に関わったことがある方もおられると思いますが、今日はそんな研修医の制度について少しお話しようと思います。

いわゆる研修医のシステムは大きく2段階になっており、初期研修として2年、後期研修（専攻医）として3年が平均的な研修期間になります。（下図）

研修医の制度

初期研修としての2年間は様々な科を数ヶ月ずつ研修します。これは専攻医になる前に幅広い知識を身につけ、医師としての“総合力”を底上げすることが目的といえます。

後期研修医は“専門医見習い”のような立場で研修を行います。3年後の専門医試験を突破できるよう、それぞれの科の専門的な知識や技術を習得していきます。当院にも10名程度の後期研修医が在籍し、皆それぞれ目指す資格を取れるよう励んでいます。

さて、研修医の役割は自身が研修を通じて立派な医師になることもありますが、病院の医師全体の雰囲気を作る要素となっているようにも思います。僕らの勉強方法の一つとして“*See One, Do One,* Teach One.”という言葉が用いられることがあります。このTeach oneが重要で、教育を受けることはもちろん研修医の力になりますが、正しく教える・指導することもまた上級医の大きな力になっています。このようにお互いがお互いを高め合うことで、活気も生まれ、良い医療として患者さんに還元できると考えています。

これからも“若い力”として病院や島根の医療を盛り上げられるよう、勉強していきます。

～～「臨床教育・研修支援センター」開設とチーム医療の取り組みについて～～

看護局　臨床教育・研修支援センター担当　古居 須美江

多くの専門職を積極的に活用するチーム医療については、医療・生活の質の向上、医療従事者の負担軽減、医療安全の向上に不可欠と認識され、国もこれを推進し、診療報酬で支援してきた経緯があります。当院では、チーム医療の推進と地域への貢献を目的に医療支援室が設置され、平成25年度から2ヵ年にわたり職種横断的な研修等に力を入れてきました。

平成27年4月、「人財育成」が病院運営の柱の一つとなり、全職員を対象とした教育・研修の充実を支援することを目的に、臨床教育・研修支援センターの、平成28年度開設を目指すことになりました。私は、この準備の一環であるチーム医療推進ワーキングのリーダーとして、医療支援室の活動の継承に携わっています。

平成29年度からの新専門医制度を踏まえ臨床研修体制をより充実し、島根県の教育病院として卒前から卒後まで一貫した教育・研修の充実を支援するほか、当院は平成27年7月に地域医療支援病院の承認を得たことから、他の医療機関との連携強化や、地域医療従事者への教育の充実も期待されています。

【臨床教育・研修支援センターの概要と取組み】

臨床教育・研修支援センターは、教育・研修支援、シミュレーション、チーム医療推進、臨床研究ガイドの4つのパートで構成されます（図1）。

当院はこれまで、それぞれの部署や局ごとに臨床教育研修を推進し、専門性の向上に努めてきました。

臨床教育・研修支援センター（図１）

しかし、実際それぞれの局がどのような研修ニーズをもち、どのような研修を実施しているのか集約化されていませんでした。臨床教育・研修支援センターでは、全職員を対象とした人財育成という視点で、局別に実施されている研修・教育の情報収集・集約・情報提供などを行い、局を跨いだ研修参加や講師依頼など、局別研修の充実と活用を支援していきます。

患者さんに選ばれる病院であるためには、職員にとっても魅力ある働きがいのある職場でなければなりません。教育・研修の充実により、それぞれの職種が専門性を発揮し、活気ある職場づくりの一助になると考えます。4つのパートが連携しながら魅力・特色ある研修の実施を支援したいと思います。

【臨床教育・研修支援センターとチーム医療】

チーム医療推進の取り組みとしては、今までに院内で活動する医療チーム支援のほか、チーム医療推進ワークショップ（他職種の業務や取り組み紹介）、新入職員交流会（チームワーク演習）、コミュニケーション研修（コミュニケーション手法SBARの紹介）など、全職員を対象に職種横断研修に取り組んできました。チーム医療を推進する上では、どうしても縦割りになってしまいがちな組織の中で、他職種が果たす役割や機能を理解した上で連携していくことや「顔が見える・心が通う関係づくり」が重要です。組織横断的な活動を通して、チーム医療の一員として連携していく文化を作っていく必要があり、その中で個々の存在を認めあうことが、それぞれの専門職のやりがいにも繋がると考えています。また、地域の医療ニーズに対応するために養成が求められている総合診療医においても、患者さんが抱える様々な問題に幅広く対処する医師として、高い臨床能力はもとより、その問題解決や地域への連携には専門職を積極的に活用するチーム医療が不可欠です。チーム医療推進を継続しながら、臨床教育・研修支援センターが名実ともに充実し、地域に貢献できる医療人育成につながるように努力していきます。

～～　言語聴覚士の取り組み紹介!(^^)!　～～

医療技術局　リハビリ技術科　言語聴覚士　　森田 孝衣・永瀬 祐太
甲斐 詞・久岡 美穂子

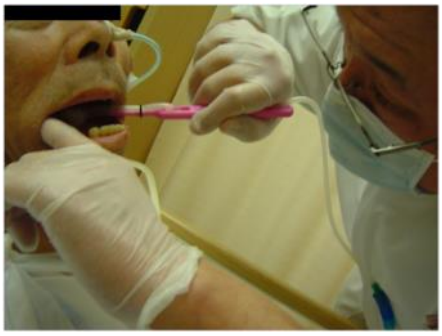
あなたは大切な家族と話ができなくなったら
どうしますか・・・？
大好きなものが食べられなくなったら
どうしますか・・・？

言語聴覚士は国家資格になって19年とまだ新しい分野で、同じリハビリテーション技術科で働く理学療法士や作業療法士と比べて認知度が低く、どのような仕事をしているのかピンとこない方も多いと思います。言語聴覚士とは、“話す”“聞く”“食べる”のスペシャリストです。人と会話をする、ご飯を食べる事は誰でもごく自然にしていることですが、病気や事故、加齢などの原因で困難になることがあります。こうした、ことばでのコミュニケーションや飲み込みに問題がある方々の改善をお手伝いし、より良い生活を送ることができるよう全力でサポートするのが言語聴覚士の仕事です。

当院の言語聴覚士

当院での言語聴覚士のメインとなる仕事は、嚥下障害のある患者さんに対し、“誤嚥性肺炎を予防し安全に食事が出来るようにすること”です。具体的には、安全に食べられるお口を作り（口腔を衛生に保つ）、口唇や舌、喉頭等の飲み込むために必要な器官の筋力を向上させ、誤嚥や窒息から身を守るため咳き込む力を付けることです。さらに、口唇や舌の動きが悪い方には安全に食べることのできる食物の固さや形を設定し、飲み込みやすい姿勢に調整します。はじめは、唾を飲み込むことさえできず、むせていた患者さんも、食物を用いない訓練から始め、徐々に形のある物が食べられるようになっていく姿を見ると、我々もとても嬉しく感じます。

しかし、これは決して言語聴覚士単独では成し遂げることはできません。リハ科医や摂食嚥下認定看護師、管理栄養士と共に摂食嚥下チームを作り、病棟看護師との連携をはかりながら病院を上げて安全に経口摂取ができるよう日々奮闘しています。



口腔ケアの様子

嚥下障害の他にも、失語症（言葉を聞いて理解することが難しい、言葉や文字が出てこない・違う言葉が出てきてしまう障害）や、構音障害（口唇や舌の麻痺によって呂律が回りにくく、発音しにくくなる障害）で困っている患者さんもいらっしゃいます。自分の意思をしっかりとことばで伝えることができるよう、患者さんと共にリハビリに励んでいます。

実はこんな有名人も言語聴覚士のリハビリを受けていました！

【歌手　西城秀樹さん】
西城秀樹さんは、2003年と2011年に2度脳梗塞を発症し、構音障害が残りました。言語聴覚士との懸命のリハビリの結果、現在は再びCDを発売したり、ライブを開催するまでに回復されました。

【北海道日本ハムファイターズ　石井裕也投手】
石井投手には、先天性の聴覚障害があります。専門用語では「感音性難聴」と呼ばれる神経性の難聴で、音を正確に聞き取れないために言葉の習得が困難です。そのため小学生の頃、言葉の教室で言語聴覚士と1対1で言葉の発音や声を出す練習をしたそうです。また、現在でも石井投手の補聴器の調整を言語聴覚士が行っているそうです。

（引用：日本言語聴覚士協会公式サイト　著名人インタビュー）

連載

～～　シリーズ『技術のデパート』検査技術科　part4　～～

医療技術局　検査技術科　臨床検査主任　矢﨑 桂子
臨床検査技師　片寄 志保

＜生理検査部門＞

前回に引き続き、生理検査部門の業務を紹介します。

■脳波・筋電図検査室

脳波・筋電図検査室では様々な検査を行っています。脳波検査は頭に電極を装着し、脳の微弱な電気信号を記録します。CTやMRI等の画像検査では見えない神経細胞の過剰な興奮などもわかります。けいれん・意識消失・意識障害などの原因検索を目的とし、患者さんの状態や緊急度にあわせて救急外来や病棟に技師が出向き検査を行うこともあります。

新生児聴覚スクリーニング検査(AABR)は、新生児に音を聞かせた時の脳波変化を検出し、先天性難聴を早期に発見します。

手足のしびれや筋力低下などで末梢神経障害が疑われる場合には神経伝導検査を行います。神経を電気で刺激し、その反応から障害部位やその程度を評価します。

検査室内の検査だけでなく、手術室での術中モニタリング検査(主に脳外科手術)に私たち臨床検査技師が関わっています。手術により麻痺等の後遺症が起きないよう術中に脳波・筋電図を記録し、波形変化を観察します。24時間体制で時間外の緊急手術にも対応しています。

睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害を検索する終夜睡眠ポリグラフィ検査は、自宅で行う簡易検査と精密検査(入院検査)があります。精密検査は技師が就寝前に病棟で電極装着を行い、翌日に睡眠中の脳波や呼吸のデータを解析し、睡眠障害の程度を調べます。

脳死下臓器提供における法的脳死判定では、通常の5倍感度の脳波記録が必須であり、より厳密な検査精度が要求されるため、定期的にシミュレーションを行い、常に迅速・正確に対応できるよう努めています。

脳波・筋電図検査は種類も多く痛みを伴うものもあるため、患者さん一人ひとりに適切な応対をし、安心して検査を受けて頂けるよう心掛けています。

■聴力検査室

聴力検査室では、難聴の程度、性質及び障害部位とその成因について調べています。

単純な音の聞こえ以外にも、言葉の聞き取り能力や、耳栓を装着し鼓膜の状態を調べる検査なども行っています。

■平衡機能検査室

平衡機能検査室ではめまいを訴える患者さんに対して、めまいの程度や、どこの障害によってめまいが起きているのかなどを調べる検査を行っています。直立姿勢時の体のゆらぎを機械で計測したり、眼球の動きを(CCD)カメラで観察したり、眼の周りに電極をつけ記録にとったりします。この検査は患者さんの精神状態や集中力に依存し、検査環境の影響を大きく受けるため、技師の検査手技やめまいについての理解度が検査結果の信頼性に大きく影響します。

■呼吸機能検査室

呼吸機能検査は肺の容量、換気能力、気道の異常、肺拡散能力など肺の機能を調べる検査です。呼吸障害の有無、障害の種類、その重症度などを検索します。また全身麻酔による手術が可能か、手術後の回復能力の判定にも用いられます。この検査は他の生理検査に比べ患者さんの協力が不可欠な検査であり、技師がタイミングのよい声掛けを行い、患者さんに最大の努力をしていただくことが重要となります。昨年新しい検査機器が入り、より精密な検査ができるようになりました。

生理検査部門では新しい検査が次々と導入されています。私たちは医療の進歩に合わせ、常に精度の高い検査技術が提供できるように取り組んでいます。

神経伝導検査

呼吸機能検査

～～　安全な食事提供に向けた取組み　～～

日清医療食品株式会社　調理責任者　成田 司

島根県立中央病院にて給食業務を行わせて頂いております日清医療食品株式会社です。日々、患者さんの信頼と満足を得る「心」のこもった食事サービスを提供出来る様、社員一同、試行錯誤しております。

患者さんへ食事を提供する上で美味しい食事は勿論ですが安全への取組みも非常に重要となって参ります。

今回、弊社が取り組んでおります安全な食事提供に向けた取組みについて紹介させて頂きます。

当社が属するワタキューグループ社是「心」

当社はHACCP理論に基づいた自主衛生管理システムを作成し、徹底した衛生管理と検査体制の整備を行っています。

○社員の衛生管理

基本的な「手洗い」の指導から、衛生管理についての理念までをマニュアル化しています。また、日常業務に関しても独自のチェックリストにより管理しています。

○調理時の衛生管理

食材の適切な温度による調理や保存、調理器具による二次汚染の防止などに関してマニュアル化しています。

○流通時の衛生管理

適切な温度帯による保存、配送システムを確立しています。食品の微生物に関する検査も常に行っています。また、本社衛生管理室においては、細菌の発生を抑制するための規準に関する研究も積極的に進めています。

衛生管理マニュアル

禁止食やアレルギー対応については事務所管理栄養士が禁止食対象患者のチェックリストを作成し、献立作成を行います。調理側では、調理開始前に病院調理師・その日の当社現場責任者である指令者・当社管理栄養士でミーティングを行い、禁止食対象者・献立の確認を行います。

その後、禁止食対象者がわかる様に「名前札」の作成、トレーを青に変更して、1つの配膳車にまとめて管理を行い、入れ間違いを防止します。最後に、事務所管理栄養士と、当社調理スタッフによるダブルチェックを行います。

禁止食対象者・献立の確認の様子

これからも安全管理を徹底して、患者さんに喜んで頂ける食事作りに社員一同、邁進していきたいと思います。おもてなしの心をもって、心と心のふれあいを食事を通して実践できるよう全力で取り組んで参ります。

島根県立中央病院　はなまる賞　はじめました

中央病院職員を表彰する制度、島根県立中央病院「はなまる賞」が設けられました！

「はなまる賞」は、中央病院の医療提供の向上につながる、模範ともいうべき取り組みをされている個人及びグループを年に2回選出し、表彰します。

平成27年9月に第1回「はなまる賞」が選出され、次の方々が受賞されました。

臨床工学科のみなさん

ハーモニーのみなさん

第１回「はなまる賞」受賞者

おめでとうございます！！

看護局の事務管理　看護局　高橋 裕子さん

看護職員のみなさんの事務補助をしています。皆さんが気持ちよく仕事出来るように、自分に出来ることは何か考えて仕事に取り組むように心がけています。患者様と接する機会は少ないですが、病院の為に微力ながらも力になれたら嬉しいです。

宿日直や緊急手術の呼び出し対応　臨床工学科

この度は、表彰して頂きありがとうございます。緊急業務の対応に疲弊することもありますが、今回の受賞により科員一同大きな励みとなりました。今後も、患者さん・医師・看護師・当院のために貢献できるように努めていきます。

がん専門薬剤師全国トップ合格　薬剤局　園山 智宏さん

はなまる賞に選ばれたことに大変驚いたのと同時に光栄に思います。日々支えていただいている方々へ感謝いたします。学んだことを患者さんのため、また、自分自身やがん医療に関わるスタッフの業務の質向上に活かせるよう、今後も努めて参ります。

縁の下の力持ち　物流管理室　石飛 信子さん

職員の皆さんが患者ケアに専念できるよう“縁の下の力持ち”として、日々奮闘しています。皆さんからの「ありがとう」の一言が私の原動力です。この度頂いた賞に恥じぬよう、今後も努力していきたいと思います。ありがとうございました。

新病院開設時から活躍　ボランティア「ハーモニー」

この度職員さん達と肩を並べ受賞した事、大変嬉しく感じています。週3時間の活動で、2000時間を超えた人が5名います。「県中にはエプロンの人がおられて安心」と言っていただける様これからも患者さんの心に寄り添える様心がけたいと気持ちを新たにしています。ご一緒に活動して頂ける方、募集中です。

相談対応　事務局
北川 正樹さん・高橋 幸成さん・布村 優さん

推薦者から　院内外からの各種問合わせ・相談対応等をされ、医療者が安心して働ける職場環境づくりに貢献して頂いています。

受賞者から　ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

平成２７年度　開催イベントの紹介

今年度も、地域の皆様・患者の方、そのご家族の方を対象とした様々なイベントを行いました。健康や病気について皆様に考えて頂くきっかけとなっていることを望みます。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！！

看護の日～看護の心をみんなの心に～

5月15日(金)

ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「看護の日」です。看護の心、ケアの心、助け合いの心を、だれもが育むきっかけとなるように気軽に看護にふれてもらえるよう全国で様々なイベントが行われています。当院でも1階ふれあいホール（正面玄関ホール）での健康相談や展示、入院患者への特別食提供・メッセージカードの配布などを行いました。

＜ふれあいホール内容＞

フットケア、体重・体脂肪測定、医療・栄養・福祉相談、ドクターヘリ・助産師展示、看護の日グッズと花配布など

がんに関する市民公開講座
一緒に考えましょうがん医療

９月５日(土)　ビッグハート出雲

例年、島根大学医学部附属病院と共催で行っています。今年のテーマは「がんを知り、予防する　そしてがんに負けずに生きる」でした。医師や県の保健指導スタッフ、特定社会保険労務士、医療ソーシャルワーカーなどの講演や、質問コーナーなどがありました。また、がんに関する展示も行いました。今年度は１２０名の地域住民の皆様方にご参加いただきました！

世界糖尿病デー　11月12日(木)

毎年、11月14日は「世界糖尿病デー」です。当院では、この日の前後に、糖尿病の発症予防・糖尿病合併症予防の啓発イベントを開催しています。1階のふれあいホール（玄関ホール）では、血糖・血圧・腹囲・体組成の無料測定、医師や管理栄養士、薬剤師による無料健康相談・栄養相談・お薬相談や、糖尿病食などの展示を行いました。また、糖尿病教室にて医師や理学療法士の講演がありました。たくさんの方にご参加いただいています。

糖尿病茶話会　8月25日(火)

糖尿病の患者の方やご家族、糖尿病に関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただける「お茶会」です。お茶や糖尿病の方でも楽しんでいただけるお菓子と共に、医師や管理栄養士のミニ講座を聞き、参加者同士・医療スタッフで座談会を行いました。リラックスしたムードで、日ごろの悩みや気になること、ちょっとした工夫などをお話しいただける会です。今後も継続していく予定です。

自己血圧測定講習会　年2回

高血圧疾患患者の方、そのご家族、また血圧測定に興味がある一般の方を対象に、自己血圧測定の意義とその実施方法について講習会を行っています。医師、管理栄養士、看護師がわかりやすく講義や実技指導を行っています。今年度は7月・10月に行い、1回に15名程度の方にご参加いただきました。開催する際には、当院外来等でポスター掲示をしご案内しています。興味のある方は、医療スタッフへお気軽にお声掛けください。

母親教室　毎月第１～第４火曜日

妊娠中の方を対象とした全4回の教室です。日程等は当院のホームページにも掲載しています。

	内容	講師
1回目 妊娠初期（～15週）	・合併症予防 ・妊娠期の過ごし方	産婦人科医師 助産師
2回目 妊娠中期（16～23週）	・乳児および妊娠中の歯科衛生について ・妊娠中の栄養 ・母乳栄養の準備	歯科医師 管理栄養士 助産師
3回目 妊娠中期（24～31週）	・お産の準備について ・お産のビデオ	助産師
4回目 妊娠後期（32週～）	・母子同室について ・赤ちゃんのお世話について	助産師

高校生の1日看護体験

8月5日（水）

看護の心や看護職への関心を高めてもらい、一人でも多くの生徒に看護職を目指して貰おうと行っています。県内の高校3年生60名にご参加頂きました。
看護体験、助産体験、救命救急部門見学など。

こうのとり学級　奇数月第3金曜日

不妊治療中や検討中の方、不妊症ではないかと悩んでいる方やそのご家族を対象とした教室です。
不妊に関する検査・治療についてや助成金制度等についてのお話や、希望する方には医師や認定看護師との個別面談を行っています。

院内コンサート　5月・9月・11月開催

患者さんの癒しの場として、ふれあいホール（玄関ホール）で院内コンサートを開催しています。5月には北陵高校合唱部の皆さん、9月に行ったお月見コンサートにはアンサンブル・ダルセーニョさんをお招きしました。11月には出雲ロータリークラブ主催で出雲学友協会の方々のコンサートを行っています。毎回患者さんや来院された一般の皆様に聴いていただいています。

普及啓発・お知らせイベント

緩和ケア・ピンクリボン（乳がん）・がん相談支援センターなど

ふれあいホールなどで来院された方へチラシ・リーフレットを配布したり、ポスターを展示したりしました。健康長寿マスコットキャラクターのまめなくんやしまねっこが来てくれることもありますよ！

口唇口蓋裂患者家族会　講演

10月18日（日）

形成外科部長　岡本 仁医師による講演が行われました。口唇口蓋裂患者の方のご家族、50名程度が参加されています。

イベントが開催される時には、ポスター掲示や当院ホームページ等でお知らせいたします。
皆様、是非ご参加ください！！

『乳腺科外来』についてのお知らせ

平成２８年４月１日（金）より、

“乳腺科外来”は

再診予約および紹介状をお持ちの方を優先させて頂きます。

その他初診の方は受付に限りがありますので、

お断りする場合もあります。ご了承ください。

島根県立中央病院

島根県×山陰３メディア共同キャンペーン

企画：島根県、山陰中央新報社、山陰中央テレビ、山陰放送
キャンペーン期間：2016年3月31日まで

島根県ドクターヘリについて皆様に知って頂くためPR活動中！

詳しくは特設webサイトをご覧ください

URL　doctorheli-shimane.com

外来診療表【　一般（初診）】　平成28年3月1日時点

診　療　科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療科	○		○		○		○		○	
精神神経科	○		○		○				○	
神経内科	○		○		○		○		○	
呼吸器科	○		○		○		○		○	
消化器科	○		○		○		○		○	
循環器科	○		○		○		○		○	
リウマチ・アレルギー科	○			○	○				○	
血液腫瘍科	○		○		○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○		○		○	
外科	○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○					
整形外科	○		○		○		○		○	
脳神経外科	○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○				○	
心臓血管外科	○				○				○	
泌尿器科	○		○				○		○	
小児外科		週不定								
腎臓科	○		○				○			
形成外科		○			○				○	
皮膚科	○		○		○		○		○	
眼科	○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○				○			
歯科口腔外科	○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○	

◆編集後記◆　暖冬だと油断していたら大寒波に襲われ、極端な冬！と思っていたら、いつの間にか暦の上では季節は春となりました。来月からは新年度が始まります。何かと慌ただしい時期ですが、皆様お体にはお気を付けください。【M・O】